

# SUGINAMI Keikan-Roku

## 景観録

## 並

## 杉

### 第二十二号



●発行日 平成28年3月31日  
●発行 杉並区都市整備部まちづくり推進課  
TEL.03-3312-2111(代表)

### 「てきがいそう このえふみまろ 荻外荘(近衛文麿旧宅)」

## 国の史跡に指定

平成27年11月20日、国の文化審議会から荻外荘(近衛文麿旧宅)を史跡として指定するよう文部科学大臣に対して答申がありました。これを踏まえ、平成28年3月1日に荻外荘が、国の史跡に指定されました。

荻外荘は、昭和前期に内閣総理大臣を三度務めた近衛文麿の別邸であり、荻窪に現存する建物の一部は移築されていますが、昭和前期の政治の転換点となる重要な会談が数多く行われた場所として、国の史跡に指定され、その保護を図ることとなりました。

区では、平成27年3月に策定した「(仮称)荻外荘公園基本構想」における基本方針等に基づき、荻外荘保存活用計画の策定など、荻外荘の建物や庭園の復原・整備、活用に向けた取組みを進めてまいります。



### 荻外荘とは

荻窪駅南口から10分ほど歩き、大田黒公園の正門の前の道をさらに5分ほど南へ進んでいくと、石造りの門柱に木製扉の重厚なつくりの門が見えます。この門の奥にひっそりとたたずんでいる建物が、今回の景観録で紹介する荻外荘です。

ここは戦前から終戦後まで近衛文麿の別邸として政治の舞台の中心となり、新聞に何度も「荻外荘」の文字が掲載され、荻窪の地名が一躍世に知られるきっかけとなった場所です。また、建築家・伊東忠太<sup>\*2</sup>が手がけた現存する数少ない邸宅建築のひとつであり、大変貴重な建物でもあります。

なお、荻外荘の敷地については、建物を含む北側部分は公開していませんが、南側部分は、暫定的に開放しています(開園時間…午前9時〜午後5時)。

\*1 近衛文麿…五摂家(鎌倉時代に成立した藤原氏嫡流で公家の家格の頂点に立った5つの家のこと)の筆頭である近衛家の第29代当主で、三度に渡り内閣総理大臣を務めた。  
\*2 伊東忠太…明治から昭和期の建築家、工学博士。東京帝国大学名誉教授。独特の様式を持った築地本願寺などの作品を残す。



- 1 (仮称)荻外荘公園から臨む荻外荘
- 2 西側正門
- 3 荻外荘にあるシダレザクラ
- 4 上空から見た荻外荘
- 5 荻外荘の玄関

# すぎなみ／ひと／まちなみ SPECIAL EDITION

## 萩外荘のあゆみ

「萩外荘」は昭和2年、萩達吉に任じていた医学博士・入澤達吉が、伊東忠太に設計を依頼して建てた邸宅で、当初は『楓萩四處』と呼ばれていた。その後、ここを大変気になった近衛文麿が、昭和12年に入澤より譲り受け、当時の元老・西園寺公望が「萩外荘」と名付けたといわれます。南側の高台に位置する当時の萩外荘からは、善福寺川を一望に収め、富士山も遠くに眺めることができたそうです。昭和12年7月、第一次近衛内閣が発足すると、たびたび萩外荘で重要な会議や協議が開かれるようになり、多くの要人がこの地を訪れました。昭和15年、二度目の総理に就任した際に行われた、いわゆる「萩達会談」では、結果として日独伊三国同盟へとつながる決定がなされるとともに、第二次内閣の組閣本部となりました。

太平洋戦争終戦後の昭和20年12月、近衛文麿は萩外荘で最期を遂げました。その後一時期、吉田茂が入居したこともありましたが、萩外荘が大大的に世間で取り沙汰されることもなくなりました。

昭和35年には萩外荘の玄関や、数々の会議が行われた客間部分等が豊島区駒込の天理教東京教務支庁へ移築され、近衛が取得した時の半分程度の大きさとなりました。しかし、萩外荘の豊かなみどりや重厚な雰囲気、建物や門構えは、今も歴史的・文化的な雰囲気を醸し出しています。

\*3 入澤達吉・東京帝国大学医学部教授・東京帝国大学付属院長・同大学医学部長・宮内省待医頭等を歴任した医師。伊東忠太とは義理の兄弟（夫人同士が姉妹）にあたる。

# 萩外荘 Tekigai-sou

### 萩外荘の略表

1927(昭和2)年	入澤達吉が萩外荘を創建
1937(昭和12)年	近衛文麿が取得 第一次近衛内閣発足
1940(昭和15)年	萩外荘で萩達会談が行われる 第二次近衛内閣発足
1941(昭和16)年	第三次近衛内閣発足
1945(昭和20)年	第二次世界大戦終戦 近衛文麿、萩外荘で自決
1960(昭和35)年	玄関・客間部分を豊島区に移築
2012(平成24)年	地元10町会からの要望を受け、杉並区が購入決定
2013(平成25)年	萩外荘周辺まちづくり懇談会の設置
2014(平成26)年	都市緑地として都市計画決定 杉並区が用地を取得
2015(平成27)年	(仮称)萩外荘公園南側敷地を暫定的に開放 (仮称)萩外荘公園基本構想策定
2016(平成28)年	国の文化審議会から史跡指定の答申 国の史跡に指定

## 萩外荘の北側敷地開放と建物内一部公開

平成27年11月28日景観まちづくりイベント2015の一環として、萩外荘の北側敷地と初の建物内一部公開を行いました。建物内の公開については、耐震補強工事の実施前であることから、人数等を限定する必要があり、事前申し込み制としました。定員300名のところ、倍以上の方から応募があり、萩外荘への関心の高さが伺えました。

当日は約600名の方が来場され、北側敷地内に展示した萩外荘の歴史や建物に関するパネルを熱心にご覧いただきました。



(上) 建物内一部公開の様子  
(中) 公開した部屋の様子  
(下) 北側敷地のパネル展示



(上) 庭から臨む萩外荘 (昭和43年)  
(下) 居間から庭を臨む (昭和43年)



(上) 入澤達吉所有時の萩外荘と庭  
(下) 萩外荘の扁額 (西園寺公望書)



## まちなかアートデザインコンテスト@高円寺

『まちなかアートデザインコンテスト@高円寺』は、東京電力の協力のもと、高円寺駅周辺に配置されているトランスボックス（電力供給のための変圧器やスイッチなどが収納された構造物）にアートデザインを施し、落書き防止やまちの美観向上、にぎわいの創出につなげることを目的として、実施しました。

応募総数は全国から146作品にのぼり、いずれの作品も個性に溢れ、高円寺の文化の奥深さや阿波おどりの熱気が表現されており、見応えのある作品ばかりでした。この選りすぐりの作品の中から、最終的に30作品を選び、高円寺駅周辺のトランスボックスにラッピングを施しました。



▲トランスボックス

### 最優秀賞

#### 「THE OUR 踊り KOENJI」

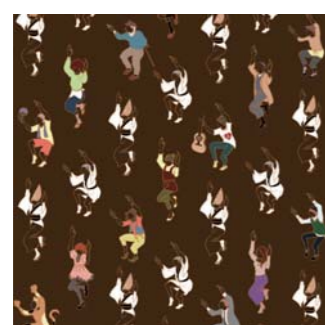
「高円寺阿波おどり」の活気や華やかさ、踊り手と見物人が一体となったエネルギーな一瞬をイラストで表現



#### 「蝉時雨」

伝統と流行、歴史と若者文化との共存、長屋造りの気配が残る街並み、文庫本や音楽機器なども添えることで「高円寺の阿波おどり」を表現

### 優秀賞



「踊る阿呆」



「高円寺に舞う」



「COLORFUL KOENJI！」



「マイタウン高円寺」

※上記の最優秀賞、優秀賞以外に24点の受賞作品（高円寺賞）があり、合計30作品のアートデザインがトランスボックスにラッピングされています。

## 萩外荘（建物）の復原・整備イメージ

※ 図は、昭和35年に移築された部分を再移築した場合の復原・整備イメージであり、現存する建物とは異なります。また、今後公園設計等に併い合わせに変更を生じる場合があります。



区は、平成24年に地元10町会からの要望を受けて、土地及び建物の購入を決定し、歴史的資源を活かした公園として整備・公開することになりました。

〔仮称〕萩外荘公園基本構想では、「萩達会談」が行われた昭和15年から昭和16年を基本に復原・整備を行い、かつての萩外荘の姿を再び萩達吉の地に蘇らせることとしています。

現在、南側敷地を暫定的に解放していますが、再移築を含めた萩外荘の復原・整備には相当の期間が必要になることから、今後も地元地域の皆様のご理解や協力をいただきながら取り組んでいきたいと考えております。

## 今後の萩外荘の 保存・活用について

# 「すぎなみ 景観ある区マップ」の新作を発行しました！

毎回好評の「すぎなみ景観ある区マップ」の新作を発行しました。

今回は、「高井戸・浜田山編」。神田川沿いに大きな公園や緑地が広がる地域で、隣の世田谷区まで足を伸ばせます。3つのモデルコースを用意していますが、このマップを参考に自分のお気に入りの散策ルートを探してみましょう。

今まで発行したすぎなみ景観ある区マップは以下の6地域（荻窪南編、阿佐谷・高円寺編、荻窪北・下井草編、西荻窪・上井草編、善福寺・西荻北編、西荻南・久我山編）です。

マップは区ホームページでご覧いただけるほか、区役所3階まちづくり推進課、区民事務所、区民センター、図書館、郷土博物館で配布を行っています。



荻窪南編

阿佐谷・高円寺編

荻窪北・下井草編

西荻窪・上井草編

善福寺・西荻北編

西荻南・久我山編

最新号「すぎなみある区マップ 高井戸・浜田山編」▶

NEW!



神田川沿いに大きな公園や緑地が広がる地域です。豊かなみどりとともに古代からの歴史も探してみましょう。

**地域の豆知識**  
**土地のなりたち**  
 井の頭池を水源とする神田川が西から東に流れ、かつては両岸の平地には湿地が広がり、台地に続く斜面は鬱樹林(桐樹林)でした。三草(三萩野・三井の池)と、池の宮(池宮)など、斜面林が現在でも多く残っています。神田川沿いの台地には、旧石器時代から縄文時代・古墳時代といった遺跡があり、古代人が暮らしていました。

**地域の歴史**  
 鎌倉時代は、鎌倉と東国御家人を結ぶ鎌倉街道が杉並区内を南北に通っていましたが、江戸時代に入って衰えました。代わって日本橋と下流を結ぶ甲州街道が五街道の一つとして整備され、慶長9年(1604)に高井戸に宿場が設けられました。元禄11年(1698)、内藤新宿に新しい宿場がつくられると交通客が増えました。徳川家康の入府後、神田川が神田上水として江戸市民の飲料水用に整備されました。さらに、江戸の人口増加による飲料水不足を補うため、承応2年(1653)に玉川上水が開削されました。現在は杉並区内では取水の部分が多く、中央自動車道や公園として使われています。神田川流域の水田用水路も下水道として噴霧化され、車止めのある歩行者用道路として活用されています。

支えあい共につくる  
 安全で活力あるみどりの住宅都市 杉並

## ※1 家の塗り替えには届出が必要です。

景観法・杉並区景観条例にもとづき、杉並区全域が景観計画区域に指定されています。景観計画区域内では、建物を建て替える場合だけでなく、塗り替えを含む建物の外観変更を伴う行為についても、事前に届出が義務付けられています。

※1 既存と同色の塗り替えも含まれます。



- 対象区域**  
 景観形成重点地区は、妙正寺川、善福寺川、神田川、玉川上水沿い周辺の区域  
 一般地域は、景観形成重点地区以外の杉並区内全域
- 対象建物**  
 景観形成重点地区では、規模に関わらず全ての建物  
 一般地域では、高さ10m以上または延べ面積1,000㎡以上の規模の建物
- 届出時期**  
 行為着手の30日前まで



対象区域等、詳しくは下記までお問い合わせ下さい。  
 杉並区まちづくり推進課まちづくり景観係 03-3312-2111 (代表)

(※2)の重点地区：河川区域の両脇 30m以内